

令和6年度第2回北海道立近代美術館協議会 議事録

1 日 時 令和7年2月19日(水) 10:00~12:00

2 会 場 北海道立近代美術館 3階 会議室 (Web会議システム Zoom 併用)

3 出席者 【委 員】東尚典、大石朋生、柿崎三津子、加藤誠、北村清彦(会長)、

霜村紀子、中井令、三澤祥子、三橋純予、吉崎元章(副会長)

(計10名) (欠席 千葉徹) (敬称略50音順)

【事務局】近代美術館：立川館長、松田副館長、中村学芸副館長、熊澤総務企画部長、

村山学芸部長、富田総務企画課長

三岸好太郎美術館：櫻井館長、本吉副館長

4 傍聴者 なし

5 議 題

【近代美術館】

(1) 令和6年度事業の実施状況について …… 資料1-1

(2) 令和7年度事業運営計画(予定)について …… 資料1-2

(3) 北海道立近代美術館リニューアル基本構想(素案)について …… 資料2

【三岸好太郎美術館】

(4) 令和6年度事業の実施状況について …… 資料3-1

(5) 令和7年度事業運営計画(予定)について …… 資料3-2

6 議 事

道立近代美術館長挨拶の後、会長の進行により議事に入る。

(1) 令和6年度事業の実施状況について

(2) 令和7年度事業運営計画(予定)について

ア 事務局から資料1-1、1-2(近代美術館)について説明

イ 質疑・意見

【北村会長】

以前の協議会の際に吉崎委員からは、今年度の展覧会について、日本的な展覧会が多い印象という発言に対し、美術館側からコロナなどの影響で展覧会の予定が変更となったためという説明もありましたが、ご覧になって如何でしたか。

【吉崎副会長】

いずれも質が高く、北海道ではなかなか見ることが出来ない作品を見る機会が続いたということ自体は、高く評価しても良いのではないのでしょうか。分野の偏りはありますけれども、多くのニーズがあり、お客様もたくさん入っているということは良かったのではないかと思います。

【北村会長】

高山寺展では入口の所で人が詰まっていました。展示などの工夫がもう少し必要だったのではないのでしょうか。皇室の至宝展は 36,000 人。もう少し入っても良かったかなと思います。伊藤若冲を特別にフィーチャリングしている訳でもなく、展示室に入り、次のコーナーに展示してあり、特別、目玉にもされておらず、少し残念だったと思います。

ウィズ・キッズの展覧会が始まって、コレクション展の第Ⅱ期では常設展の入館者が、高山寺展との会期と重なったこともありますが、かなり多くなっています。24,815 人の観覧者の中で、ウィズ・キッズが目的でこの展覧会に来たのか、それとも、違う目的で来たのか。それを区分けするのは難しいとは思いますが、アンケートなどから、ウィズ・キッズの手応えなど如何ですか。

【熊澤総務企画部長】

このⅡ期については、夏休みの時期と重なっていたことや、同時に開催している「浮世絵のヒロインたち」では浮世絵を多く展示させていただいて、アンケートの結果などからは、「迫力があってよかった」という声が多く寄せられていました。また、「道産子追憶之巻」については「また見れてよかった。」との声が多かったです。アートギャラリー北海道もこの時期に展示をしていましたし、盛りだくさんの展示でした。こうしたことや、高山寺展の観覧者数が多いことも相まって、2万4千人を超える観覧者数になったと考えています。

【北村会長】

ウィズ・キッズがこれからの美術館のひとつの目玉になるのであれば、例えば、親子については無料にするとか、あるいは、展示の構成なども色々と考えられたらいいのではないのでしょうか。

【東委員】

折角、関わり合いを持たせていただいたので、ご報告をかねて、説明させていただきます。

ウィズ・キッズについて、私たち学校の教員の目から見て、子どもたちに関わる部分で何か参考になることがないかということで、夏休みの期間、7月31日に市内の教員、私が所属している民間の研究団体のメンバーに声をかけて、実際に展示を見てもらって、学芸員の方と展示の仕方や作品について、色々意見と交換する研修会の機会を持たせていただきました。

当日、私は、事情で出られなかったのですが、10名ほどの教員が参加させていただいて、見るだけではなく、学芸員の方とお話をさせていただく貴重な機会でありました。

当日の意見交換についても記録としてまとめていただき、こちらに送っていただきました。

私たちは、子どもを連れて行って見る立場なので、子どもの目線での展示の仕方にもう少し工夫があったらなど割と具体的なこととお話することが出来たのかなと思います。

これは、「なぜこのかたちなの？」という前半の方だったのですが、後半の「さいきょうのざいりょう」も、ある市内の小学校で授業をするときに、連携をとらせていただいて、特別観覧申請を提出し、事前に見せていただいたものをビデオでとって、子どもたちに紹介し、それを発想のきっかけにして色々な材料から自分の作品をつくること。

もうひとつ、美術館の様子を併せて子どもたちに紹介した中で、自分たちの学校に作ったものをかざってみよう、展示してみよう、という取組をさせていただきました。

先週の土曜日、最後の授業の報告があつて、直接美術館には行けなかったのですが、本物の作品、自分たちでは思いもつかない色々な材料を使って作家が扱った作品を映像を通して見ることで、子どもたちが非常に意欲を持って表現に取り組みましたし、普段以上に、発想を広げて表現していたということです。

それから、展示をするということで、学芸員の方から、美術館では、3つのテーマを持ってやっ

ているんですよということをビデオで紹介していただいていた、それに沿って、子ども達が空いている教室でテーマ性を持って展示をすることで、お互いの作品を新たな視点で見るという素晴らしい機会をいただきました。美術館と連携させていただいたことで、貴重な実践ができたと授業者が報告していました。また、特別観覧申請を利用するなど改めて美術館との連携の方向性についても知ることが出来ました。

オンラインで市外の先生、宗谷の先生も会議に参加したのですが、そういった方法であれば、自分も休みの日に美術館に出かけて、子どもたちの授業のために展示を見せていただいて、授業に活用出来るかもしれないと今後の可能性にも触れていた方もいました。

今回、ウィズ・キッズという展覧会を開いていただいて、連携させていただいたことはこちら側にとっても有意義な機会だったと御礼を申しあげたい。

【加藤委員】

ポケット学芸員のナレーションについて、美術部以外の生徒、放送局の子どもたちが活動する場ということで、他の部活動の領域の部分と連携するということが出来て良いと思いました。放送局は放送局で活動する場がありますけれども、子どもたちが美術品等に触れてナレーションすることで、見方なども変わってくるのではないのでしょうか。今後も活動の場を提供してもらえるとありがたいと思います。

また、近代美術館ではないのですが、三岸好太郎美術館の展示について、情報提供してほしいとの依頼がありましたので、高文連から関係する部署に情報提供するなどいたしました。

もし、今後もそのような申出があれば、高校生、あるいは、部顧問にお伝えすることができますので、そのような連携が図られると良いと思います。

【中井委員】

ポケット学芸員について、高校生の声がすごく聞きやすく、とてもいいなと思いました。

少しずつ作品数が増えてきていることや野外彫刻から取り組んでいくこともいい順番だと思えます。今後も楽しみにしています。放送局の方が美術作品のナレーションに取り組むことによって、美術への関心をもつていただくことで、広がりが増えていくことに期待しています。

あと、カフェのことですが、先日「星の瞬間展」を拝見して、すごくいい展示だと思いました。

その後、カフェに寄ったところ、「星のブレンド」というのがあって、その珈琲もすごく美味しかったです。このようなコラボレーションは好ましいと思いますので、今後も期待したいと思います。

【北村会長】

オンラインアート教室は準備がなかなか大変だとの説明がありましたが、双方向で行う場合、そのやりとりは活発に行われているのですか。

【村山学芸部長】

年代によっても違いはあるのですが、基本的にどの学校の生徒も積極的に話してくれますし、学芸員とのやりとりもうまくいっています。学芸員とやりとりをすることで、生徒も作品に興味を持ってくれます。ただ、カメラを通してなので、細かいところは伝わらないこともありますが、今度は美術館に行ってみたいという子どもたちもおりますので、いい繋がりが出来ていると思います。

【北村会長】

特別支援学校の実施が多いということは何か配慮があるのでしょうか。

【村山学芸部長】

特別支援学校からの申込が絶対数として多いということがあるのですが、その学校に合わせて、こういったことを先生が求めているか、内容をその都度私たちの方でカスタマイズしていくことで、大変評判もよく、繰り返し応募してくる学校もあります。

【北村会長】

移動美術館がなくなったので、なかなか地方に行く機会がなくなったので、こういうデジタル技術を使った仕組みはこれからも色々工夫してやっていただきたいです。

【柿崎委員】

特別展について、高山寺展のお客様が多くて待ち時間が長すぎたという声があったとお聞きしました。来年度の「金閣・銀閣 相国寺展」について、どのくらい集客数を見込んでいるか分かりませんが、もし可能であれば、夜の7時まで開館するとか、休館日をなくして展示していただく。夏

の一番いい時期で夕方もすごく過ごしやすい時期で、そのような取組は全く無理なのでしょうか。

【熊澤総務企画部長】

夜間開館ですが、夏場は7月～9月までの間、金曜日に夜間開館を検討していきたいと考えています。休館日を全部なくすことは我々にとってもかなり負担で、人繰りもなかなか難しいところがあると思いますが、出来るところからやっていく。なるべく、多くの来館者に来ていただけるようなことを考えています。

【柿崎委員】

閉館時間を少し長くするとか。

【熊澤総務企画部長】

可能なところから検討していきたいと考えています。

【北村会長】

相国寺展は1998年に開催したと思いますが、その際の入館者数はどの程度でしたか。

【村山学芸部長】

約3万人です。当時は展覧会を年間8本ぐらい開催していたので、入館者も分散していたのではないのでしょうか。

【霜村委員】

オンラインアート教室について、パッケージではなく、学校の要望に応えながら実践されて、きめ細やかに何度も打ち合わせされているということは、とても労力がかかります。また、要望に応じた作品を提供できるといったことも、普段の学芸員が所蔵品を把握したり、研究したりしている力が発揮されているなと思い、とても素敵な企画だと思いました。

また、展示室でおしゃべりできる日、「おしゃべりデー」についてですが、作品を見るとどうしても声が出てしまいます。美術館はどうしても「静かに」って注意されてしまうのですが、声が出るようなメリハリのある企画をされていることも素敵な発想だと思いました。

お子さんですとか親子にとっては、そのことで、作品の理解が深まる場合があり、美術館に何度も通いたくなることにもなるので、このような企画をもっとPRされてもよいのかなと思いました。

あと、作品の保存について、建物が老朽化したり、収蔵庫が狭隘化してくると、どうしても作品の環境が悪くなってきてしまうのですが、それにも着目されて、作品の額についても、素材を保存に適した中性紙に変えたり、ガラスを低反射に変えるといったことをこまめにやられています。こうしたことは目に見えないのですが、公開の方ばかりに目がいて、そちらにばかりお金をかけて、理解されにくい部分ではありますが、来年度も修復費にかなり予算を付けていて、作品を大切に守っていくという試みもされているので、そうした取組は貴重なことだと思いました。

【吉崎副会長】

今年の展覧会で一番意義深いと思ったのは、今開催している「星の瞬間展」です。

美術館の基礎というのは、言うまでもなくコレクションなのですが、そのコレクションに新たな魅力を見だし、伝えていくという可能性を感じました。

現代のアーティストに収蔵作品と向き合って、作品を制作してもらい、一緒に展示するという手法は、最近、アーティゾン美術館や当館でも行っており、いくつかの美術館でも試みられているのですが、北海道のアーティストが北海道関係の収蔵品を扱うということで、この地に生きた違う世代の人たちが響き合いを持たせて、意味を持たせていく、これはすごくいい試みだとは思いました。もう一つは学芸員10人がコレクションを新たな見地から研究した成果を張り出していて、見応えというか読み応えがありました。とても意義深い内容だったのですが、展示室であれだけの量の文章をパネルで読ませる手法でしか、研究成果を伝える手法がないのか。これはこの美術館だけではなくて、全ての美術館にとって大きな課題だと感じました。

あと、この展覧会について興味があったので、学芸員のリレートーク2回とアーティストトーク2回を全て聞きに行きました。理解や作品の見方も深まりましたし、中でも学芸員のリレートークがすごく面白く、それぞれの味が出ていて、確か1人8分ほどの持ち時間だと思いますが、研究の成果をぎゅっと凝縮させているのがとてもわかりやすかったです。そこで興味を持った作品について、パネルをじっくり読んでみようという気持ちになりました。1回目のリレートークすごく良かったので、他の学芸員に2回目を誘ったのですが、来た人もいれば、その日都合が悪かったという人も多かったです。

あんなに良いものであれば、2回、3回やっても良かったのではないのでしょうか。

また、パネルが10枚ぐらいあったと思いますけど、もうちょっとダイジェスト的か、キャッチコピー的に興味を持たせるような段階的な深度を考えた表示が出来るかなと思いましたが、内容や取組としては、挑戦的だし、とても成果があったのではないかと思います。

もう一つ、来年度、緊急修復事業費として500万円ほど予算化されていて、すごくいいことだと思うのですが、この財源が貸館のお金だということで、貸館をどんどん増やさなければ、修復が出来ないという形自体はあまり良いことではない気がします。作品修復のための予算の組み立てというものが健全な方向に行くことを望んでいることをお伝えしておきます。

【三橋委員】

来年度の事業計画に記載している調査研究の推進の中で、一般利用者・研究者等が行う調査・研究への支援協力とありますが、6年度の事業実施状況には記載がないので、何か具体的なことがあるのか、それとも、今色々実施されている中での通常的なものなのか。特に一般利用者等の研究の協力・支援についてどのような形で進められているのでしょうか。

【村山学芸部長】

これまでも、外部から要請があったり、作品を見たいという要望があれば、その都度お応えしてきたところなのですが、これも、リニューアル後の姿として目指しております。

リニューアル後にはより一般の利用者ですとか、研究者の人たちに情報提供しやすい、また、当館を使用しやすい環境を整えて、支援してきたい、協力していききたいという思いを込めまして、今後の姿勢の在り方として特出しして記載したところです。

【三橋委員】

例えば、展示していない作品を研究でみたいとか、研究者であれば、便宜を図っていただけるとは思いますが、それが、例えば、一般の利用者、学生レベルが研究、卒論、修士論文のために、作品をしばらく見てみたいというときに、以前、私が勤務していたところでは、ワークスタディールームがあって、そこに、1点、30分、何百円みたいな形で、サービスとして料金を取りながら、収蔵庫から出して、学芸員も付いて、そこで、見せて研究してもらう。そのときに、学芸員が少し

お話をしながら質問に答えたりとか、資料もどの辺にありますとかお話もしていて、結構利用者がいたのですね。それで、忙しい中というのはあるのですが。

(以下、会場では三橋委員の音声聞き取れず。)

【北村会長】

そういった形で一般の方が利用できる体制を作ってはどうかということですね。

【村山学芸部長】

有料ではないのですが、当館でも特別観覧という手続きをとっていただければ、御覧いただける方法はとっておりますので、引き続き、より利用しやすい方法をリニューアルに向けて考えていきたいと思えます。

(3) 北海道立近代美術館リニューアル基本構想（素案）について

ア 事務局から資料2について説明

イ 質疑・意見

【北村会長】

私も、リニューアルに関する検討会議に関わって、今まで、14回、3年にわたって会議に出席してきたわけですけど、アンケートをとったり、他の方々から御意見をいただいたり、近美の中で意見を集約しながら、ようやく改修+増築案としてお示しすることが出来るようになりました。

プロポーザルによる委託契約もこれからという段階。PPP/PFIの検討というのは民間の活力を使ったときにどのような形になるのかということ調査し、どのように整備を進めていけば良いのかという検討がこれから始まるということです。来年度中に、構想ではなくて、具体的な計画、どんな部屋が必要なのか、どこに配置するのか、収蔵庫をどうするか等もう少し具体的なイメージが来年度中に出来る予定になっているということです。

目指す姿の5つのコンセプトがあって、これはリニューアル後にこうしたことをやっていきたいということですが、ウィズ・キッズなどは、既に始まっていますので、リニューアルを待たずに来るところから手を付けていきたいと思います。先程のリサーチなどもそうかも知れませんが、ハーモニーもようやくカフェが出店してくれたので、少しは快適な環境ができたのかなと

思いますし、将来こういった形でより充実する第1歩としてこのような素案ができた。これから計画を立てて、設計をして建築業者を決めてと改修と言う流れで進んでいきます。

【吉崎副会長】

現建築の歴史的価値を高く評価して改修となったとニュースにもなっていましたが、どこまで現状の建物の形が残されていくのでしょうか。

この美術館ができた1977年というのが、本郷新彫刻美術館の記念館がつくられた年と同じなのです。あと2年たったら丁度50年になって、50年たつと文化財指定の対象になるのですよね。

上遠野徹さんの建築なので、今、そちらの方向で札幌市が専門家に調査してもらい、報告書を提出してもらっています。そうすると維持管理のお金が別の所から出てくるということもあります。大規模な改修をしなければ、かなり、自由度もあり、普段使いも出来るということもあるということなのですが、おそらくこちらの美術館は大規模な改修になるので、その対象にはならないのかなと思いつつも、歴史的価値というものがどこまで、維持できるのかというところにすごく興味をもっているということをお伝えしたいと思います。

【北村会長】

その話も検討会議で出ていて、イメージが大きく変わってしまうということはどうだろう。つまり、この建物も将来的には、文化財に指定される可能性がないわけではないので、その時に、今の四阿みたいな三角形の屋根が変わってしまうとかは少し困るなということはありません。

一方で、必要な面積は明らかに不足していて、収蔵庫も狭隘化していてただ単に改修するだけ、メンテナンスするだけではあまり意味がないので、どう設計するのかというところは設計者の腕の見せ所になるのかなと思います。もちろんその時には、元のイメージが大きく変わるものでは困ります。どこまでかは、やってみないとわからないというところはあります。50年というのは札幌市の指定ですか。

【吉崎副会長】

詳しくはわかりませんが。

【北村会長】

50年というのはひとつの目安ですが、必要条件ではないと思います。真狩にある建物はこの建物と同じ程度の年数ですが、道指定にしています。

【松田副館長】

50年は国の登録有形文化財として登録されるひとつの基準です。50年を経過することにより、ひとつの条件はクリアすると思います。先程もおっしゃっていたように、この建物の文化財的価値の本質はどこにあるのかといったところは、今後、議論を重ねながら検討していくことになると考えています。

【柿崎委員】

先程、事業予算のお話があったときに、クラウドファンディングですとかサポーター制度もあるというのは、前回アンケートを書いていたときにわかったのですが、自分を含めてなのですが、美術館に寄付したいと言う場合に一番寄付しやすいというのが、透明な貯金箱でも置いてもらえたら、どんな子どもでも、お年寄りでも出来るので、貯金箱を設置していただければありがたいです。

美術館の恩恵を受けている方はたくさんいらっしゃるのではないかと思いますし、寄付したいという気持ちがある方もいらっしゃると思うので、よろしく願いいたします。

【北村会長】

募金箱までの議論は出ていなかったのですが、折角リニューアルをすることまで決まったのに、そのことがまだ道民の皆様に中身まで知られていない、機運が盛り上がらないというところがあります。機運を盛り上げるために、例えば、募金箱を手がかりにするとか、道民運動、クラウドファンディングをしたり、期成会を作ったりというのは、必要かなという意見は申し述べてあります。

【柿崎委員】

そういったものに携われない人間もいるので、いつでも入れやすい募金箱があればいいかなと思います。

【北村会長】

一般の人が関わりあいも持てるような仕組みは必要かも知れません

【松田副館長】

基本構想素案の中にも、財源確保が課題と言うことで記載させてもらっていますし、先程、クラウドファンディングなども出ていましたが、色々な形でコラボレーションしながら財源確保していくことを検討していくことになると思います。

(4) 令和6年度事業の実施状況について

(5) 令和7年度事業運営計画（予定）について

ア 事務局から資料3-1、3-2（三岸好太郎美術館）について説明

イ 質疑・意見

【北村会長】

三岸好太郎美術館もかなり老朽化が進んでいるので、近美と同じように将来のことを考える時期に来ているのかと思います。吉崎副会長が協議会の中で、個人美術館では新しい切り口が必要だという発言があったかと思いますが、来年度、鈴木ヒラクさんのドローイングなども展示するというのですが、如何ですか。

【吉崎副会長】

発言したら、すぐに展示に結びついてすごいなと思いました。

鈴木ヒラクさんは何年前に500m美術館でもすごく大きな作品を展開していて、ダイナミックで自由な線でいい作家だなと思っていたところなので、好太郎とどのような展示になるのかすごく楽しみにしています。

今年の展示において「#みまのめ」を先日見たのですが、高校3年生の作品が出ていて、それがすごく良かった。そんなところまで目配りしていたのだと学芸員のリサーチ力に感心したところでもあります。今、丁度我々の美術館でも、貸館なのですが、「北の美大展」という、北海道の大学で美術を学ぶ有志が集まった展覧会をやっています。北海道の美術が活発になっていくためには、次代を担っていく若い人たちが自信を持って北海道で活動していくのだという気持ちを持ってもらうことが大切だと思っています。若い作家に美術館で発表する機会を与えていくというのはすごい自信になるでしょうから、これは、今後是非続けて行って欲しいと思います。

【大石委員】

いつも最後に「#みまのめ」のところで回ってきますね。出番かなと思って待っていました。

吉崎先生がおっしゃったように僕も高校生の作品は素晴らしいなと思ったり、本当に個人を扱った美術館として動きが速くて、マンパワーが活かされているなと思って、いつもすごく楽しみにしています。ご指摘があったように、僕も北海道の方々は作品を作るのにすごく意欲的ですし、いい美術館もいっぱい揃っていると思っています。

一方で、おそらくお話しされていた問題の根幹には、応援団になっていただくというときに、北海道を応援したいという方達はいっぱいいますし、そういう形で北海道は成り立ってきていますが、なかなか受け口の所、クラウドファンディングじゃないところで、貯金箱を置いたら良いのではないかという意見もあったのですが、美術に関しては、高文連を見ていると、あるいは道展のアンダー21を見ていると、市民ギャラリーですが、すごく人も来ているし、活発に事業も行われているのですが、なかなかそれが、若い作家になると急にトーンダウンしていくとか繋がっていかない。中高大のあたりで、その後がとぎれていってしまうという実情があるような気がするのですが、三岸好太郎美術館では、そこをすくいあげて、ファン層を広げるといふか、ウィズ・キッズから広げてきたものをずっと未来に繋げていくような活動の拠点になっていくのではないかと。そうした位置づけを感じていて非常に有意義な活動だなと思っています。

具体的に気になったところは、近代美術館では、カフェと連動して100円安くなるという取組をしていましたが、三岸好太郎美術館ではカフェと連動した取組はしているのでしょうか。SNSで発信したら次回から少し安くなるとか、割引されるとか。

【本吉副館長】

色々と制約があって、観覧料を安くするという取組はしていませんが、カフェとの連携は出来ています。

カフェの事業者は、我々の活動に敏感に反応して、こういう展覧会をしたら、こういう関連したパンを作ろうとか、例えば、マール記念日というのがあったときには、中井令さんの協力も得ながらマールのパンを売ろうとか積極的に動いてくれる事業者さんなので、特に事業化しているわけで

はないのですが、色々な連携、関連グッズを売ってくださったりとかしています。

【大石委員】

提案ですが、来館者アンケートに対する対応、レスポンスを受け取るところなのですが、三岸美術館は、SNSにおいて非常に活動的にXをやられたりだとかインスタもやったりとかすることがあります。リツイートしていただいたら、何かしらの恩恵があるというような仕組み作りをしていく。おそらく、これから、知事公館の中にある美しい美術館というのが、インスタを通じて周知され、私が推したい美術館ということで、どんどんファンが増えていくのではないかとこのことを勝手に妄想しておりますので、可能であれば、ご検討いただければ幸いです。

【三澤委員】

三岸好太郎美術館はすごいきれいで、長居したくなる美術館だなと思っています。SNSをおやりになっているということですが、フォロワー数はどのくらいなのでしょう。また、今、こんなことをやっていますなどタイムリーな発信が出来ればよいと思います。

【本吉副館長】

インスタグラムは、11月下旬から初めて88人程度かと思います。すごく広まっている訳ではありませんが、口コミで少しずつ増えています。インスタグラムでは、ストーリーズというリアルタイムで発信できるものが、道のセキュリティ上、スマホからではなく、WEBからしか発信できないので、ストーリーズは使えず、毎回投稿する形になってしまっています。

【三澤委員】

フォロワーさんにやってもらうことはあるかも知れませんね。

【本吉副館長】

美術館としては、リアルタイムの発信は難しく、現状では、事業が始まる前、終わってから投稿する形となっています。

【中井委員】

インスタグラムの話が出ていましたが、三岸に入っているカフェ業者さんが、毎朝メッセージを

発信していますよね。もちろんカフェのメニューもそうですが、展示会のことも発信してくれているので、その点については、すごく積極的でいいなと思っています。

また、私も「#みまのめ」を見るのがすごく楽しみで、若い方々のエネルギーと言いますか、表現したいんだという気持ちがすごく作品にあふれています。情熱をすごく感じるの、見る側としても、ドキドキわくわくしながら鑑賞を楽しめるので、この企画は本当にいいなと思って毎回楽しみにしています。

【北村会長】

小さい美術館で第1期から第4期まで特別展を含めて、展示会を開催する、その間にも様々な関連事業をする。とても意欲的だとおもいます。学校にも出かけていっていますし。皆さん、居心地がいいという評価が定まっていますので、そうしたことを大事にしながらもう少し人が増えるような取組が必要ですね。来年の冬は外山卯三郎、イサムノグチの義理の妹の夫、北大の農学校に行って、京大の文学部、私の先輩でもあるのですが、少し変わった人ではあったようです。

そうした時代の雰囲気なども出していただけると良いかと思います。日本のアバンギャルドなどについてもより理解が進むのかも知れません。

【吉崎副会長】

来年度予算で、芸術文化振興基金と三菱UFJから助成金、177万円計上していますが、採択発表はまだだと思うのですが。

【本吉副館長】

申請しているという段階ですが、それを反映させた上で、道としての予算は措置される予定となっています。採択されなかった時にどうなるのかということは、定かではない部分もあります。

【吉崎副会長】

三菱UFJの助成金は減額されることもあって、少し心配だと思いました。

我々も毎年、色々な所に助成金を申請しているのですが、予算段階では、助成金を0で計上していて、その中で最低限の計画を立てています。予算が付いたら遠方の借用先を増やすとか、図録を充実させる、展示台を新たに作るなどの対応をとっています。財団と予算の考え方が違うのかも知

れませんが、助成申請の結果は3月末ではなくて、早く発表してほしいですね。

毎年3月末のギリギリですから、ちょっともどかしく思っています。

【北村会長】

以上をもちまして、本日の議事をすべて終了いたします。

熱心なご討議、ご意見ありがとうございます。

【議事終了】

事務局から事務連絡を行い、すべての議事を終了。